

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 医療保護施設・地域医療支援病院

聖隷三方原病院 総合病院

2023年3月1日発行

功

聖隷おおぞら療育センター

公所ゾーン再編成を終えて

也

哲

The Light of givel givel give I give I gliftly

看護部課長

兼

副所長

沖村

宏美

て頂きたいと思います。 編成後についてお話をさせ 育センター」入所ゾーン再 に行った「聖隷おおぞら療 再編成の目的は先のおお 今回は、 2022年4月

たが、 要性でした。 もなう生活環境の整備の必 必要な利用者の増加や加齢 害像の変化 ぞら通信でもお伝えしまし 二つ目は障害像の変化にと に合わせた生活支援の提供、 にともなう生活支援の変化 一つ目は利用者の障 (医療的ケアが

では、 移動のない利用者に対して できました。また、ゾーン る姿を多く見かけることが 用者を気遣い声がけしてい 交う職員が様々な場面で利 利用者の移動時には、行き 画を立て、利用者にとって 活のリズムを崩さないよう 移動当日は利用者の療養生 65名が移動となりました。 丁寧な移動を心がけました。 今回の入所ゾーン再編成 職員が念入りに移動計 利用者の半数以上の

> ができました。 ととは思いますが、 変化や体調の変化を気にか 無事に移動を終了すること 日は大きなトラブルもなく 配やご迷惑をお掛けしたこ ことができました。再編成 け声がけを行い進めていく ますので、 ただしい動きは直接伝わり 族の方々には、 については、 利用者の表情 利用者やご家 本当にご心 移動当

なります。 のゾーン名は以下の通りに ゾーン再編成後の各号館

2号館 すばる はるか 1 号館 あすか こだま うらら

3号館

を経過した頃には通常の毎 調の変化もなく1~2ヶ月 ておりましたが、大きな体 ではないかと予測し心配し 体調不良が生じてしまうの に環境に慣れない緊張感か ほのか 再編成後は利用者職員共 利用者への影響として あおば ほくと

できました。

います。 の都度、 すが、 者だと考えています。 評価の仕方はあると思いま 顔であり表情の柔らかさだ 者の評価は、 ことが多々ありますが、 功だったのか」と問われる を終えて、関係部署より「成 と思っています」と答えて 今回の入所ゾーン再編成 一番の評価者は利用 私は「いろいろな 再編成後の笑 利用 そ

ン再編成を行いました。 2022年4月に入所ゾ 整備の問題解決のために、 フは、 ぞら療育センターのスタッ 療必要度に適した生活環境 最後に、 利用者の障害像や医 私たち聖隷お

も移動に伴う音や職員の慌

日が戻っておりました。

強化しながら利用者の生活 ることなく維持することが 用者の療養生活を低下させ る感染対策をしながらも利 番に対応してきました。 養生活を守り抜くことを 援態勢を受け、 や聖隷三方原病院からの応 は各号館を超えた応援態勢 の維持を検討しました。ク 感染症の対応や感染対策を ターの発生があり、 ルス感染症によるクラス ラスターが発生した号館で その後、 他号館においても更な 新型コロナウイ 利用者の 職員は ま 療





わせて頑張っていきますの で、今後ともよろしくお願 よりよい支援(おおぞらら いします。 に、スタッフ一同、 しさ) につなげられるよう 今後も利用者に対して、 力を合

Aさんは、天候がよい日 にはドライブに出かけたり、 にはドライブに出かけたり、 にはドライブに出かけたり、 の椅子に座り、 見を聞いた が楽器を弾きながらリビン が楽器を弾きながらリビン が楽器を弾きながらリビン が楽器を弾きながらりという に向けながらリラックスし た表情で聴いています。 と近く の椅子に座り、 風を肌で感 に向けながらリラックスし た表情で聴いています。

に向けて聴いていました。 とおばあさんの声の「みー る!」と繰り返し出てくる ボチャ』を語りかけました。 やりとりでも身体ごと職員 なかった…」という会話の カミの声で「やい、かぼちゃ. 員の顔をじっと見ながら聴 あさんの声に変わると、職 おくれ」と今度は弱いおば オオカミさん、食べないで ていました。そして、「ああ、 と、顔を上げて注目が高まっ あさん、おまえをくってや 職員がオオカミの声で、「ば いていました。また、オオ 日常活動では、『はしれカ

> 感じていました。 るような間が入ると、言葉 あけ、「のこった」の言葉に また、「みあって、みあって ある口調が入る語りのリズ と聴いていました。勢いの ぐりずもう」の語りかけで じている様子でした。『どん 返される会話に面白味を感 繰り返されるフレーズが含 のリズムが崩れる面白さを んでいました。途中に溜め 目が大きく開き、口元が緩 〜はけよーい」の後に間を と威勢の良い掛け声にじっ は、「はけよーい、のこった」 ムに興味がある様子でした。

メロディになると職員に視いー」や「その日もうごいけでは、「おじいさんのとけけでは、「おじいさんのとけけでは、「おじいさんのとけ



意識が向いていました。
は、裏剣な表情で聴いていました。
かなが多くなりました。歌に興味があります。また、
かに興味があります。また、
かに興味があります。また、
かに興味があります。また、
かに興味があります。また、
かいでいました。
かなが多くなりました。
かの途中で伸びやかな
といずると、職員に視線を
向ける回数が多くなりました。
歌の途中で伸びやかな
がながある。また、
のける回数が多くなりました。
歌に興味があります。また、
のける回数が多くなりました。
歌に興味があります。また、

加藤嗣也を

度も施設全体では実施せず各 容を練っていきました。 じました。そこで今年度も、 号館で企画を立て開催しまし 各号館の利用者に合わせて内 みを提供する必要があると感 常生活を守り、非日常の楽し 士が、コロナ禍であっても日 る感染対策によって、以前の なりました。コロナ禍におけ 行事ついて見直すきっかけと を話し合う中で、近年のコロ で例年開催されてきた「フェ 活を作っている現場の職員同 た。それでも利用者と共に生 ような生活が難しくなりまし ナ禍で利用者の生活における た。今年度企画立案の方向性 スタおおぞら」ですが、今年 聖隷おおぞら療育センター

る人など、様々な利用者の姿の影絵を使って語りかる企画の影絵を使って語りかる企画の影絵の動きを実施しました。影絵の動きを実施しました。影絵の動きを実施しました。影絵の動きを実施しました。影絵の動きを実施しました。影絵の動きなどを回って『あかずきん』 1号館では、各居室やリビ

見たり聴いたりして多くのが緩んだり、真剣な表情で

表出が見られます。今後も、

じることができる時間を大切

Aさんにとって楽しいと感

にしていきたいと思います。

感じられ楽しめていました。たりすることで環境の変化も屋を暗くしたり場所を移動しがありました。リビングや部がありました。リビングや部



とは違う盛り上がった雰囲気を行いました。多くの利用者が普段を行いました。2日間に分けを行いました。2日間に分けを行いました。2日間に分けをがありがあり、クリスでの演奏会する楽器やダンスでの演奏会する楽器やダンスでの演奏会する楽器やダンスでの演奏会をは違う盛り上がった雰囲気

た。いて楽しんでいる人もいましかしな歌やのびやかな歌を聞 とする人もいました。 ズムに合わせて自ら鳴らそう 緒に鳴らすところではリ トーンチャイムを職員



す。 として、フェスタ係を中心に 豊かな暮らしを支援する一員 ます。次年度もその人らしい

題して、職員が楽器演奏や歌

3号館では、

秋の音楽会と

いかけを行ないました。演奏





の衣装を着てダンスする姿を

笑顔で見ていました。

を感じ、よく見聞きしていま

されるかは分かりませんが えることは変わらないと思い 参加する利用者の非日常を考 次年度はかつてのような が開催

<u>「フェスタおおぞら」</u>

今年もコロナ禍でのクリスマスとなりましたが、感染対策を行ないながらイベントを行ない楽しい時間を過ご ました。





佐藤チャプレンによる新約聖書の朗読が





白栁 真希



楽器店の店頭で並んでいるカリンバを手 の側で演奏できる楽器はないかと思い、 良いなと日々思っています。利用者さん 私も何か1つ、楽器を演奏できると っとした時間に演奏が行われていま さひでは楽器演奏や歌が上手い職員 した白栁真希です。

和音にしたり、指を滑らせるように動か

そうかなと思い、楽譜と一緒に購入して

い音がしました。短い簡単な曲なら弾け です。指で弾いてみるとポローンと優し

みました。両方の親指で同時に鳴らして

鳴らすとドレミファソ・・と音が出る楽器

左右にだんだんと短くなっていて交互に

に細長い鉄の棒が並んでいて、

中央から

にとってみました。カリンバは木の土台

してタララーンと深みのある音を出して

色々組み合わせることで多彩な

1月の食育献立は縁起の良いエビを使用した

深みのある音色いるとは思えない

親指2本で奏でて

動画でプロの演奏を検索して見てみると

音のバリエーションができます。

「えびのサラダ」でした。

旬は産卵期を除く時期とされており、 種類によって異なります。

甘えび・・・12~2月頃

車えび・・・天然は夏頃、養殖は冬頃

伊勢海老・・10月~1月頃



サンタさんと一緒に踊りました♪

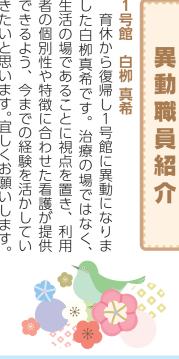
きは見ていても

は見ていても面素早い指の動

奏にはほど遠いで た。そのような演 日いと思いま

をしています。 簡単な曲から練習

> 目が飛び出しているので外見から「めでたし(目出たし)」 とのいわれもあり、おせちや結婚式などでも頻繁に食べら れています。



苦情解決委員会

2022年10月~12月 期間中公表を希望される苦情は ありませんでした。

(期間中受付した苦情は1件でした)



	11月	12月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	43人 (210日)	38人 (175日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	14人 (41日)	14人 (51日)
実習者数 (グループ数)	0人 (0グループ)	0人 (0グループ)